

Sun Blade X4-2B Oracle® VM サーバーイン ストールガイド

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことにより起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel、Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

このドキュメントの使用方法	5
Sun Blade X4-2B モデル名	5
最新のファームウェアおよびソフトウェアの取得	5
ドキュメントとフィードバック	6
このドキュメントについて	6
サポートとトレーニング	7
寄稿者	7
変更履歴	7
Oracle VM ソフトウェアのインストールについて	9
Oracle VM インストールタスク表	9
Oracle VM の概要	10
Oracle VM のインストールオプション	11
Oracle System Assistant	12
Oracle VM Server のインストールの準備	15
インストール環境の準備	15
仮想ディスクの作成およびブートディスクの設定	18
BIOS の準備	18
Oracle VM Server のインストール	21
Oracle VM Server をインストールする (Oracle System Assistant)	21
Oracle VM Server のインストール (手動)	25
Oracle VM インストールの完了	29
サーバーシステムツールにアクセスする	29
Oracle VM NEM ドライバをインストールする	30
Oracle VM リソースの作成と管理	31
索引	33

このドキュメントの使用法

このセクションでは、システムの最新のファームウェアとソフトウェア、ドキュメントとフィードバック、およびドキュメント変更履歴の入手方法を説明します。

- 5 ページの「Sun Blade X4-2B モデル名」
- 5 ページの「最新のファームウェアおよびソフトウェアの取得」
- 6 ページの「ドキュメントとフィードバック」
- 6 ページの「このドキュメントについて」
- 7 ページの「サポートとトレーニング」
- 7 ページの「寄稿者」
- 7 ページの「変更履歴」

Sun Blade X4-2B モデル名

名前は Sun Blade **X4-2B** サーバーモジュールを識別します。

- 1: アルファベットの X は x86 製品を示します。
- 2: 最初の数字 4 はサーバーの世代を示します。
- 3: 2 番目の数字 2 は、プロセッサの数を示します。
- 4: アルファベットの B は、製品がブレードサーバーであることを示します。

最新のファームウェアおよびソフトウェアの取得

Oracle x86 サーバー、サーバーモジュール (ブレード)、およびブレードシャーシのファームウェア、ドライバ、およびその他のハードウェア関連ソフトウェアは、定期的に更新されています。

最新バージョンは次の 3 つのうちいずれかの方法で入手できます。

- Oracle System Assistant - これは、Sun Oracle x86 サーバー用の、出荷時にインストール済みのオプションです。OSA は必要なすべてのツールとドライバを備えており、ほとんどのサーバーに取り付けられている USB ドライブに格納されています。
- My Oracle Support - <http://support.oracle.com>
- 物理メディアのリクエスト

詳細については、『Sun Blade X4-2B 設置ガイド』の「サーバーファームウェアおよびソフトウェアアップデートの入手」を参照してください。

ドキュメントとフィードバック

ドキュメント	リンク
すべての Oracle 製品	http://www.oracle.com/documentation
Sun Blade X4-2B サーバーモジュール	http://www.oracle.com/goto/X4-2B/docs
X4 サーバーシリーズのシステム管理	X4 シリーズサーバー向け Oracle x86 管理ガイド (http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs)
Oracle System Assistant	X4 シリーズサーバー向け Oracle x86 管理ガイド (http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs)
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1	http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs
Oracle Hardware Management Pack	http://www.oracle.com/goto/OHMP/docs
シャーシ Sun Blade 6000 モジュラーシステム	http://www.oracle.com/goto/SB6000/docs

このドキュメントについてのフィードバックは <http://www.oracle.com/goto/docfeedback> からお寄せください。

このドキュメントについて

このドキュメントセットは、PDF および HTML の両形式で入手できます。情報はトピックに基づく形式 (オンラインヘルプと同様) で表示されるため、章、付録、およびセクション番号は含まれません。

特定のトピック (ハードウェア設置やプロダクトノートなど) に関するすべての情報が含まれる PDF を生成するには、HTML ページの左上にある PDF ボタンをクリックします。

サポートとトレーニング

次の Web サイトに追加のリソースがあります。

- サポート:<http://support.oracle.com>
- トレーニング:<http://education.oracle.com>

寄稿者

主著者: Lisa Kuder、Ray Angelo、Mark McGothigan

寄稿者: Mike Ma、Qing-su Hu、Lu Wei、Cynthia Chin-Lee、Michael Tabor、Ralph Woodley

変更履歴

次の一覧はこのドキュメントセットのリリース履歴です。

- 2013 年 9 月初版。

Oracle VM ソフトウェアのインストールについて

このセクションでは、Oracle VM ソフトウェアとインストールオプションについて説明します。

説明	リンク
Oracle VM インストールタスクの概要を表示します。	9 ページの「Oracle VM インストールタスク表」
Oracle VM ソフトウェアについて説明します。	10 ページの「Oracle VM の概要」
使用するインストール方法を決定します。	11 ページの「Oracle VM のインストールオプション」
Oracle System Assistant について説明します。	12 ページの「Oracle System Assistant」

Oracle VM インストールタスク表

次の表に、Oracle VM ソフトウェアをインストールするための大まかな手順を示します。

手順	説明	リンク
1	Oracle VM サーバーとインストールオプションについて学習します。	10 ページの「Oracle VM の概要」
2	Oracle VM サーバーのインストールオプションについて学習します。	11 ページの「Oracle VM のインストールオプション」
3	Oracle VM サーバーをインストールするためにサーバーモジュールを準備します。	15 ページの「Oracle VM Server のインストールの準備」
4	使用可能ないずれかのオプションを使用して Oracle VM ソフトウェアをインストールします。	21 ページの「Oracle VM Server のインストール」
5	Oracle VM ソフトウェアの更新と Oracle VM サービスの管理を行います。	29 ページの「Oracle VM インストールの完了」

Oracle VM の概要

Oracle VM は、ユーザーが仮想マシン (VM) を作成して管理できる仮想化環境プラットフォームです。これらの仮想マシンは同じ物理サーバーに存在しますが、独立した物理サーバーのように動作します。Oracle VM で作成された各仮想マシンは、それぞれ自分自身の仮想 CPU、オペレーティングシステム、ネットワークインタフェース、およびストレージを備えています。

注 - Oracle VM のインストール済みバージョンを購入した場合は、『[Sun Blade X4-2B 設置ガイド](#)』に示された手順に従ってインストール済みソフトウェアを構成してください。

Oracle VM には次のコンポーネントが含まれています。

- **Oracle VM Server:** 仮想マシンと Oracle VM エージェントの実行に使用する Xen ハイパーバイザをベースとした、軽量のセキュアな仮想化環境。
- **Oracle VM Agent:** Oracle VM Server 上にインストールされ、Oracle VM Manager と通信し、Oracle VM Server、サーバープール、およびリソースを管理するための Web サービス API が含まれています。
- **Oracle VM Manager:** 仮想マシンを作成して管理するためのユーザーインタフェースの役割を果たす Web アプリケーション。これには、仮想マシンの作成 (テンプレートを含む)、ライフサイクル管理 (配備、移行、および削除)、およびリソース管理 (.iso ファイル、テンプレート、および共有ストレージリソース) が含まれます。

このドキュメントには、Oracle VM Manager をインストールする手順は含まれていません。Oracle VM Manager に関する詳細は、次を参照してください。

http://download.oracle.com/docs/cd/E20065_01/index.htm

サポートされているソフトウェアバージョンと更新

サーバーは、Oracle VM バージョン 3.2 以上で使用できます。サポートされるオペレーティングシステムの最新のリストについては、次を参照してください。

<https://wikis.oracle.com/display/SystemsComm/Sun+Blade+Systems+Products#tab:Operating-Systems>

サーバーに関する最新情報は、『[Sun Blade X4-2B プロダクトノート](#)』で保持されています。プロダクトノートには、サーバーのハードウェアまたはソフトウェアの問題に関する詳細な情報が記載されています。

このドキュメントの最新バージョン、その他のサーバー固有のドキュメント、および関連ドキュメントは、<http://www.oracle.com/goto/X4-2B/docs> にあるサーバーモジュールドキュメントライブラリでオンラインで入手できます。

Oracle VM のインストールオプション

Oracle VM ソフトウェアを単一のサーバーにインストールするか複数のサーバーにインストールするかを選択できます。このドキュメントの適用範囲は、単一サーバーへのソフトウェアのインストールです。

単一サーバーへのインストール方法

次の表に、単一サーバーに使用できるインストール方法を示します。各インストール方法の手順は、21 ページの「Oracle VM Server のインストール」に記載されています。

メディアの配布方法	その他の要件
ローカルでの補助付き OS インストール - Oracle System Assistant を使用します。	モニター、USB キーボードとマウス、USB デバイス、および Oracle VM 配布メディア。詳細は、12 ページの「Oracle System Assistant」を参照してください。
リモートでの補助付き OS インストール - Oracle System Assistant を使用します。	リモートクライアントから OSA を起動するための Oracle ILOM に対するネットワークアクセス、Oracle VM 配布メディア (リモートクライアントからアクセス可能な DVD または ISO イメージ)。詳細は、12 ページの「Oracle System Assistant」を参照してください。
ローカルでの CD/DVD ドライブの使用 - サーバーに接続した物理 CD/DVD ドライブを使用します。	モニター、USB キーボードとマウス、USB CD/DVD ドライブ、および Oracle VM 配布メディア。
CD/DVD ドライブまたは CD/DVD .iso イメージを使用するリモート - Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを実行しているリモートシステム上でリダイレクト先の物理 CD/DVD ドライブを使用します。	ブラウザを備えたリモートシステム、接続された物理 CD/DVD ドライブ、Oracle VM 配布メディア、およびサーバーの管理ポートへのネットワークアクセス。
PXE イメージ - PXE サーバーにインストールされた OS イメージを使用します。	OS イメージがインストールされた PXE サーバー。

複数のサーバーのインストールオプション

複数のサーバーへのソフトウェアのインストールには、Oracle Enterprise Manager Ops Center を使用できます。Oracle Enterprise Manager Ops Center の使用方法については、次を参照してください。

<http://www.oracle.com/technetwork/oem/ops-center/index.html>

Oracle System Assistant

- 12 ページの「Oracle System Assistant の概要」
- 12 ページの「Oracle System Assistant の OS のインストールタスク」
- 13 ページの「Oracle System Assistant の取得」

Oracle System Assistant の概要

Oracle System Assistant は、システムに組み込まれた USB ストレージデバイス上にサーバーの一体部分として提供され、スタンバイ電源を供給すればすぐに起動できます。この埋め込みのストレージデバイスには、サポートされるオペレーティングシステムおよびハードウェアを自分で選択してサーバーの使用を開始するために必要なものがすべて含まれています。オペレーティングシステムのインストールメディアを用意すれば、Oracle System Assistant でほかのすべてのものが提供されます。Oracle System Assistant のコンポーネントは次のとおりです：

- 起動と保守のプロビジョニングタスク (OS のインストールタスクを含む) へのユーザーインタフェースアクセス
- オペレーティングシステムが使用するドライバとツール
- サーバー固有のファームウェア
- Hardware Management Pack
- サーバー関連ドキュメント

関連情報：

『Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド』 (<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>)

Oracle System Assistant の OS のインストールタスク

Oracle System Assistant の OS のインストールタスクは、Oracle VM のインストールに役立ちます。OS インストールメディアを提供すると、Oracle System Assistant の手順に従ってインストールプロセスを実行できます。サーバーのハードウェア構成に基づいて、適切なドライバも取得します。

OS をインストールすれば、Oracle System Assistant を使用して、OS ドライバに加えてすべてのファームウェアコンポーネント (BIOS、Oracle ILOM、HBA、エクスパンダ) を更新できます。

Oracle System Assistant にはローカルでもリモートでもアクセスできます。サーバーのハードウェアのインストールが終了した直後の場合、Oracle System Assistant を (物理

的にサーバー側にいる間に) ローカルで使用することで、サーバーを迅速かつ効率的に起動できます。サーバーの稼働後は、すべての機能を維持しながら、Oracle System Assistant にリモートで便利にアクセスできます。

関連情報

- 12 ページの「Oracle System Assistant の概要」
- 13 ページの「Oracle System Assistant の取得」

Oracle System Assistant の取得

ほとんどの場合、Oracle System Assistant は、サーバーにインストールされています。サーバーに Oracle System Assistant が存在するかどうかの確認方法、および更新や復旧手順の実行方法については、『Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>) を参照してください。

関連情報

- 12 ページの「Oracle System Assistant の概要」
- 12 ページの「Oracle System Assistant の OS のインストールタスク」

Oracle VM Server のインストールの準備

これらのトピックでは、Oracle VM サーバーをインストールするためのサーバーモジュールの準備に必要なタスクについて説明します。

説明	リンク
ローカル、リモート、PXE インストールのための環境を準備します。	15 ページの「インストール環境の準備」
必要に応じて、仮想ディスクを作成し、インストール用のブートディスクを設定します。	18 ページの「仮想ディスクの作成およびブートディスクの設定」
システム BIOS の準備をします。	<ul style="list-style-type: none">18 ページの「BIOS ブートモードの設定」19 ページの「BIOS での VT-d および SR-IOV の無効化」

インストール環境の準備

使用するインストール方法に一致する手順を選択します。

- 15 ページの「ローカルインストールのセットアップ」
- 16 ページの「リモートインストールまたは PXE インストールの設定」

▼ ローカルインストールのセットアップ

始める前に ローカルインストールの場合、次を設定する必要があります。

- サーバー UCP ポートに接続されたマルチポートドングルケーブル。
- DVD-ROM ドライブ
- USB キーボードとマウス
- モニター

1 **Sun Blade X4-2B と Oracle VM ソフトウェア**については、プロダクトノートを確認してください。

- Sun Blade X4-2B のドキュメントは、次で入手できます。

<http://www.oracle.com/goto/X4-2B/docs>

- Oracle VM ソフトウェアのドキュメントは次で入手できます。
http://download.oracle.com/docs/cd/E20065_01/index.htm
- 2 サーバーモジュールに **Oracle VM** が事前インストールされていないことを確認します。
サーバーモジュールに Oracle VM が事前インストールされており、そのインストール済みバージョンを使用する場合の構成手順については、『[Sun Blade X4-2B 設置ガイド](#)』を参照してください。
- 3 <https://edelivery.oracle.com/oraclevm> から **Oracle VM** ソフトウェア ISO イメージをダウンロードします。
- 4 ダウンロードした ISO イメージを使用して、**CD/DVD** を作成します。
- 5 サーバーモジュールマルチポートドングルケーブルに次を接続します。
 - DVD-ROM ドライブ (メディアからインストールする場合)
 - USB キーボードとマウス。
 - モニター

注- ネットワークに接続されたサーバーのオペレーティングシステムを構成する際には、Oracle VM Server で使用されている各ネットワークインタフェースの論理名 (OS によって割り当てられる) および物理名 (MAC アドレス) の指定が必要となる場合があります。

次の手順 [18 ページの「仮想ディスクの作成およびブートディスクの設定」](#)

▼ リモートインストールまたは **PXE** インストールの設定

この手順では、次の用語を使用しています。

- ローカルサーバーは、Oracle VM Server または Oracle VM Manager をインストールする予定のあるサーバーを示します。
- リモートコンソールは、Oracle ILOM リモートコンソール機能を使用してローカルサーバーに接続されたリモートクライアントを示します。
- PXE サーバーは、ローカルサーバーにインストールする PXE イメージをインストールするサーバーを示します。

始める前に リモートまたは PXE インストールの場合、次を設定する必要があります。

- (PXE インストールの場合) ローカルサーバー UCP ポートへのマルチポート Dongle。
 - DVD-ROM ドライブ
 - USB キーボードとマウス
 - モニター
- 1 **Sun Blade X4-2B と Oracle VM ソフトウェア**については、プロダクトノートを確認してください。
 - Sun Blade X4-2B のドキュメントは、次で入手できます。
<http://www.oracle.com/goto/X4-2B/docs>
 - Oracle VM ソフトウェアのドキュメントは次で入手できます。
http://download.oracle.com/docs/cd/E20065_01/index.htm
 - 2 サーバーモジュールに OS がインストールされていないことを確認します。
サーバーモジュールに Oracle VM が事前インストールされており、そのインストール済みバージョンを使用する場合の構成手順については、『[Sun Blade X4-2B 設置ガイド](#)』を参照してください。
 - 3 <https://edelivery.oracle.com/oraclevm> から Oracle VM ソフトウェアをダウンロードします。
 - 4 リモートコンソールを使用する場合は、次のデバイスをリモートクライアントに接続します。PXE サーバーを使用する場合は、次をローカルサーバーに接続します。
 - DVD-ROM ドライブ (メディアからインストールする場合)
 - USB キーボードとマウス。
 - モニター。

注- ネットワークに接続されたサーバーのオペレーティングシステムを構成する際には、Oracle VM Server で使用されている各ネットワークインタフェースの論理名 (OS によって割り当てられる) および物理名 (MAC アドレス) の指定が必要となる場合があります。

- 5 リモートコンソールを使用する場合は、Oracle ILOM 3.1 のドキュメントに示された手順に従って、Oracle ILOM リモートコンソールセッションを起動します。

次の手順 [18 ページの「仮想ディスクの作成およびブートディスクの設定」](#)

仮想ディスクの作成およびブートディスクの設定

サーバーにインストールされている REM に応じて、Oracle VM ソフトウェアをインストールする前に、仮想ディスクを作成する必要がある場合があります。

- Sun Storage RAID 6Gb/s SAS RAID REM HBA、(SGX-SAS6-R-REM-Z) がサーバーモジュールに取り付けられている場合は、仮想ディスクを作成する必要があります。
- Sun Storage 6Gb/s SAS REM HBA (SGX-SAS6-REM-Z) が取り付けられている場合は、仮想ディスクを作成する必要はありません。

詳細については、次を参照してください: 『[Sun Blade X4-2B 設置ガイド](#)』の「[6. OS のインストールのためにサーバーモジュールドライブを構成する](#)」

関連情報

- [18 ページの「BIOS の準備」](#)

BIOS の準備

OS のインストールのためにサーバー BIOS を準備するには、次のタスクを実行します。

- [18 ページの「BIOS ブートモードの設定」](#)
- [19 ページの「BIOS での VT-d および SR-IOV の無効化」](#)

▼ BIOS ブートモードの設定

BIOS ファームウェアは、レガシー BIOS と UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) の両方のブートモードをサポートしていますが、デフォルト設定はレガシーブートモードです。

注- Oracle VM は、現時点では、レガシーブートモードのみをサポートしています。Oracle VM をインストールする前に、BIOS がレガシーブートモードに設定されていることを確認します。

BIOS モードが UEFI モードに設定されている場合は、次の手順を実行してレガシーモードに設定します。

- 1 サーバーの電源を入れます。
コンソールに POST メッセージが表示されます。

- 2 メッセージに注目し、プロンプトが表示されたら、**F2**を押して**BIOS 設定ユーティリティー**にアクセスします。
BIOS 設定ユーティリティーのメイン画面が表示されます。
- 3 **BIOS 設定ユーティリティー**で、左右の矢印キーを使用して「**Boot**」画面に移動します。
「**Boot Menu**」画面が表示されます。
- 4 下矢印キーを使用して、「**UEFI/BIOS Boot Mode**」フィールドを選択します。
- 5 **Enter** キーを押し、上下の矢印キーを使用して「**Legacy BIOS**」オプションを選択します。
- 6 変更を保存して**BIOS 設定ユーティリティー**を終了するには、**F10**を押します。

次の手順 [21 ページの「Oracle VM Server のインストール」](#)

▼ BIOS での VT-d および SR-IOV の無効化

Oracle VM を使用する前に、BIOS で Virtualization Technology for Directed I/O (VT-d) を無効にする必要があります。これは、Oracle VM 3.2 で入出力メモリー管理ユニット (I/O MMU) がサポートされていないために必要です。さらに、Oracle VM を使用する前に、BIOS で SR-IOV (Single Root I/O Virtualization) も無効にする必要があります。

BIOS で VT-d および SR-IOV 設定を無効にするには、次の手順を実行します。

- 1 サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。
たとえば、サーバーをリセットします。
 - ローカルサーバーのフロントパネルにある電源ボタンを (約 1 秒) 押してサーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押して電源を入れます。
 - Oracle ILOM Web インタフェースから「Host Management」 > 「Power Control」を選択し、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
 - Oracle ILOM CLI で **reset /System** と入力します。
BIOS ブート画面が表示されます。
- 2 **BIOS** ブート画面でプロンプトが表示されたら、**F2**を押して**BIOS 設定ユーティリティー**にアクセスします。
しばらくすると、BIOS 設定ユーティリティーが表示されます。
- 3 右向き矢印キーを使用して「**IO**」メニューに移動します。
「**IO**」メニュー画面が表示されます。

- 4 上矢印キーと下矢印キーを使用して、「**IOVirtualization**」メニューオプションに移動して、**Enter** キーを押します。
「IO Virtualization」メニューが表示されます。
- 5 上矢印キーと下矢印キーを使用して、「**VT-d**」メニューオプションに移動して、**Enter** キーを押します。
「VT-d」ダイアログボックスが表示されます。
- 6 「**VT-d**」ダイアログボックスで、上矢印キーまたは下矢印キーを使用して、「**Disabled**」を選択し、**Enter** キーを押します。
「VT-d」オプションが無効になります。
- 7 上矢印キーまたは下矢印キーを使用して、「**SR-IOV**」メニューオプションに移動して、**Enter** キーを押します。
「SR-IOV」ダイアログボックスが表示されます。
- 8 「**SR-IOV**」ダイアログボックスで、上矢印キーまたは下矢印キーを使用して、「**Disabled**」を選択し、**Enter** キーを押します。
SR-IOV オプションが無効になります。
- 9 **ESC** キーを押して、「**IO**」メニューの最上位レベルに戻り、**BIOS** を保存して、終了します。

次の手順 [21 ページの「Oracle VM Server のインストール」](#)

Oracle VM Server のインストール

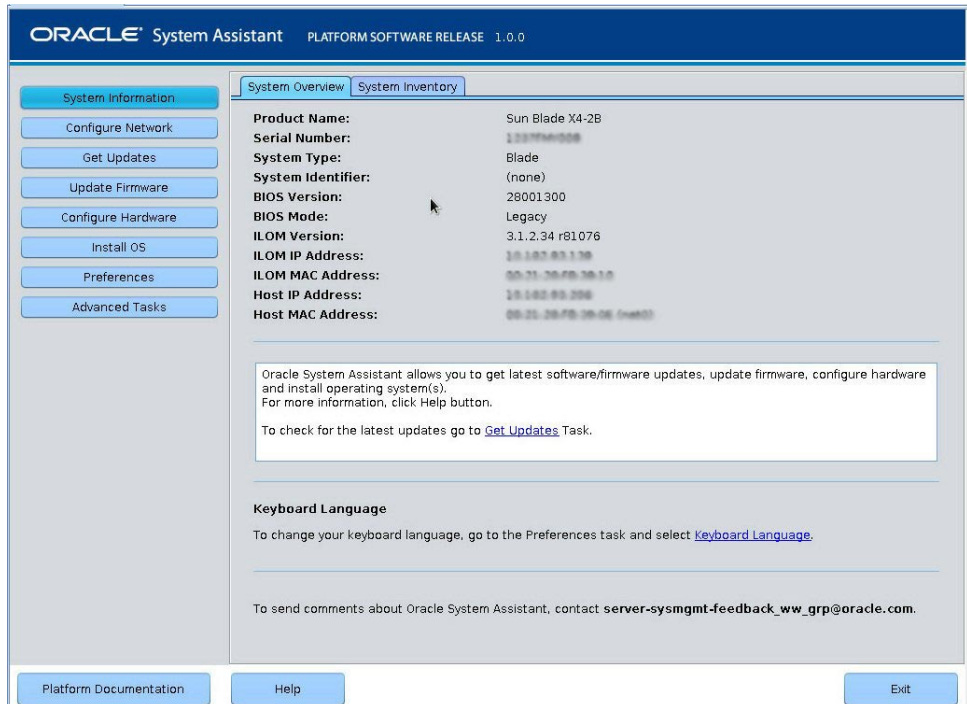
手順	説明	リンク
1	Oracle System Assistant を使用して Oracle VM Server をインストールします。	21 ページの「Oracle VM Server をインストールする (Oracle System Assistant)」
2	ローカルまたはリモートのインストール方法を使用して手動で Oracle VM Server をインストールします。	25 ページの「Oracle VM Server のインストール (手動)」

▼ Oracle VM Server をインストールする (Oracle System Assistant)

Oracle System Assistant の OS インストールタスクは、サポートされているバージョンの Oracle VM Server の補助付き OS インストールを提供します。

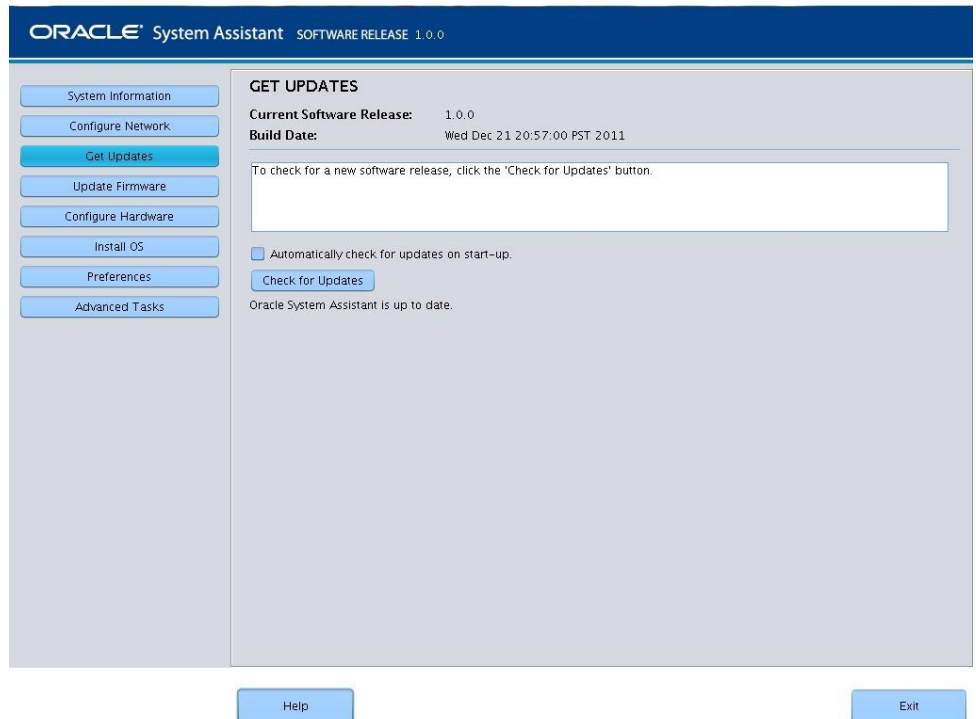
- 始める前に
- 15 ページの「Oracle VM Server のインストールの準備」の手順を実行します。
 - ローカルインストールの場合は、プロンプトが表示されたら、接続された物理 CD/DVD-ROM ドライブにインストールメディアを挿入します。
 - リモートインストールの場合は、リモートコンソールシステムの CD/DVD-ROM ドライブにインストールメディアを挿入します。Oracle ILOM リモートコンソールの「Devices」メニューから、「CD-ROM」を選択していることを確認してください。
 - ISO イメージを使用する場合は、リモートコンソールシステムからアクセスできることを確認します。Oracle ILOM リモートコンソールの「Devices」メニューから、「CD-ROM Image」を選択していることを確認してください。
- 1 サーバーがスタンバイ電源モードになっていることを確認します。
 - 2 サーバーをブートし、ビデオモニターまたはリモートコンソール画面のブート画面を注視して、プロンプトが表示されたら **F9** キーを押します。
 - 3 プロンプトが表示されたら **F9** キーを押します。
- Oracle System Assistant のメイン画面が表示されます。

注 - 特に、サーバーにリモートでアクセスしている場合、Oracle System Assistant がブートするのにしばらく時間がかかることがあります。



- 最新のソフトウェアパックがあることを確認するには、「Get Updates」ボタンをクリックします。

注 - Oracle System Assistant を更新するには、サーバーの Web アクセスが必要です。Oracle System Assistant をはじめて使用する場合は、ネットワークアクセスを設定する必要があります。『Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド』 (<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>) を参照してください。



- 5 新規ソフトウェアリリースをチェックするには、「**Check for Updates**」ボタンをクリックします。
更新が利用可能な場合は、その更新の readme ファイルが表示されます。
- 6 更新を取得するには、「**Download and Apply Updates**」ボタンをクリックします。
「Get Updates Sign-In」画面が表示されます。
- 7 MOS 資格を指定します。
- 8 MOS ユーザー名とパスワードを入力します。
サーバーは更新をダウンロードし、サーバーのリブートを尋ねるポップアップを表示します。
- 9 「OK」を選択します。
サーバーがリブートし、Oracle System Assistant を再起動します。

- 10 OSをインストールするには、「Install OS」ボタンをクリックします。
「Install OS」画面が表示されます。

ORACLE System Assistant SOFTWARE RELEASE 1.0.0

System Information
Configure Network
Get Updates
Update Firmware
Configure Hardware
Install OS
Preferences
Advanced Tasks

INSTALL OPERATING SYSTEM

Select the Operating System to Install

Supported OS: Oracle VM Server 3.0.2

Current BIOS mode: Legacy BIOS
Select the desired BIOS mode for booting OS: UEFI Legacy BIOS (selected OS does not support UEFI boot)

Select your install media location

Insert the first CD/DVD of the OS to be installed.

Click Refresh List if you have attached a new CD drive and do not see it in the CD/DVD location.

CD/DVD Location: - Select from the available CD/DVDs - Refresh List

Select boot disk

⚠ Selected OS does not support UEFI boot. For operating systems that support Legacy BIOS only, Oracle does not recommend creating partitions on disks larger than 2 TB. Please select a disk which is less than 2TB in size. Selected disk will be erased.

Boot disk: - Select boot disk -

View Installation Options

Install OS

Help Exit

- 11 「Supported OS」ドロップダウンリストから、インストールする Oracle VM のバージョンを選択します。
- 12 「Select the media location」セクションでインストールメディアの場所を指定します。
これは OS 配布メディアの場所です。
インストールにリモートコンソールを使用する場合は、「Devices」ドロップダウンメニューでリモートメディアの場所を選択します。
- 13 「Select boot disk」セクションで、「Boot disk」リストからブートデバイスを選択します。
これは、OS をインストールするデバイスです。



注意 - データの損失。OS のインストールによって、ディスクの内容が消去されます。選択したディスク上のデータはすべて消去されます。

- 14 「Install OS」をクリックします。
- 15 プロンプトに従ってインストールを完了します。
サーバーがブートします。

- 次の手順
- 必要に応じて、Oracle VM Manager をインストールします。参照先:
http://download.oracle.com/docs/cd/E20065_01/index.htm
 - 29 ページの「Oracle VM インストールの完了」

Oracle VM Server のインストール (手動)

Oracle VM Server のインストールに Oracle System Assistant を使用しない場合は、ソフトウェアを手動でインストールするための次のいずれかの手順を参照してください。

- 25 ページの「Oracle VM Server をインストールする (ローカルメディアまたはリモートメディア)」
- 27 ページの「Oracle VM Server のインストール (PXE Server)」

▼ Oracle VM Server をインストールする (ローカルメディアまたはリモートメディア)

始める前に 15 ページの「Oracle VM Server のインストールの準備」の手順に従います。

- 1 Oracle VM Server 配布 CD/DVD を挿入するか (まだ挿入していない場合)、15 ページの「インストール環境の準備」で選択した方法に対応する ISO イメージ配布メディアにアクセスします。

- 2 サーバーの電源を入れるか、リセットします。
コンソールに BIOS メッセージが表示されます。



- 3 メッセージで一連の選択肢が表示されたら、**F8**キーを押します。
しばらくして、ブートデバイスを選択するメニューが表示されます。
- 4 リストからブートデバイスを選択します。
ISO イメージを使用する場合は、物理 CD/DVD または仮想 CD/DVD からブートできます。
制御がメディア上の OS インストールプログラムに移ります。
- 5 ブートプロンプトで、**Enter**を押します。
- 6 ソフトウェアをインストールするには、プロンプトに従います。
Oracle VM Server と Oracle VM Agent ソフトウェアがインストールされます。
詳細については、次にある Oracle VM Server のインストールドキュメントを参照してください。

http://download.oracle.com/docs/cd/E20065_01/index.htm

- 次の手順
- 必要に応じて、Oracle VM Manager をインストールします。参照先:
http://download.oracle.com/docs/cd/E20065_01/index.htm
 - 29 ページの「Oracle VM インストールの完了」

Oracle VM Server のインストール (PXE Server)

このセクションでは、PXE ネットワーク環境から Oracle VM サーバーをインストールする方法について説明します。このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- 27 ページの「PXE サーバーのインストール要件」
- 28 ページの「Oracle VM Server をインストールする (PXE Server)」

PXE サーバーのインストール要件

この手順では、次のいずれかのソースからインストールメディアをブートすることを前提にしています。

- Oracle VM ソフトウェア CD または DVD セット (最小バージョン 3.0) (内蔵または外付け CD/DVD ドライブから)
- Oracle VM ソフトウェア CD または DVD セット (最小バージョン 3.0) ISO DVD イメージまたは KickStart イメージ (ネットワークリポジトリ)

Oracle VM PXE インストールを実行する前に、次の要件を満たしている必要があります。

注 - KickStart は自動インストールツールです。システム管理者はこのツールを利用して、通常は一般的な Oracle VM のインストール中に入力される、インストールと構成のパラメータの一部またはすべての設定値を含めた、単一のイメージを作成できます。通常、KickStart イメージは 1 つのネットワークサーバー上に配置され、インストール時に複数のシステムによって読み取られます。

- KickStart イメージを使用してインストールを行う場合、次の操作が必要です。
 - KickStart ファイルを作成します。
 - KickStart ファイルを含むブートメディアを作成するか、またはネットワーク上で KickStart ファイルを使用できるようにします。
- PXE を使用してネットワーク経由でインストールメディアをブートするには、次を構成する必要があります。
 - インストールツリーをエクスポートするネットワーク (NFS、FTP、HTTP) サーバー。
 - PXE のブートに必要な TFTP サーバー上のファイル。
 - PXE 構成からブートするサーバーの MAC ネットワークポートアドレス。
 - 動的ホスト構成プロトコル (DHCP)。

▼ Oracle VM Server をインストールする (PXE Server)

- 1 PXE ネットワーク環境が正しく設定されており、Oracle VM のインストールメディアを PXE ブートで使用できることを確認します。
- 2 サーバーをリセットします。例:
 - Oracle ILOM Web インタフェースで、「Host Management」 > 「Power Control」をクリックし、次に「Action」リストから「Reset」を選択します。
 - Oracle ローカルサーバーで、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約1秒押し、サーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押し、サーバーの電源を入れます。
 - サーバー SP の Oracle ILOM CLI で、「**reset /System**」と入力します。BIOS 画面が表示されます。

注- 次のイベントがすぐに発生するため、次の手順では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

- 3 BIOS 画面で、F8 キーを押して、一時ブートデバイスを指定します。
「Please Select Boot Device」メニューが表示され、使用可能なブートデバイスが一覧表示されます。
- 4 「Boot Device」メニューで、PXE ネットワークインストールサーバーと通信するように構成されたネットワークポートを選択します。
ネットワークブートローダーがロードされ、ブートプロンプトが表示されます。プロンプトで、インストールする PXE サーバーを選択できます。
- 5 インストールする PXE サーバーを選択します。
数秒後、インストールカーネルのロードが開始されます。
- 6 プロンプトに従ってソフトウェアをインストールします。
Oracle VM Server がインストールされます。
- 7 Oracle VM のドライバを更新します。

- 次の手順
- 必要に応じて、Oracle VM Manager をインストールします。参照先:
http://download.oracle.com/docs/cd/E20065_01/index.htm
 - 29 ページの「Oracle VM インストールの完了」

Oracle VM インストールの完了

次の各トピックでは、Oracle VM ソフトウェアのインストールを完了させる方法について説明します。

タスク	リンク
サーバーシステムツールをインストールします。	29 ページの「サーバーシステムツールにアクセスする」
特定のドライバを手動で更新します。	30 ページの「Oracle VM NEM ドライバをインストールする」
Oracle VM リソースの作成と管理について説明します。	31 ページの「Oracle VM リソースの作成と管理」

▼ サーバーシステムツールにアクセスする

次の手順を使用して、Oracle System Assistant USB デバイスまたは Oracle サポートサイトから Oracle Hardware Management Pack ツール (追加ソフトウェア) にアクセスします。Oracle Hardware Management Pack (Hardware Management Pack) は、ホストからの Oracle サーバーの管理および構成に役立つツールを提供します。

始める前に Oracle System Assistant がシステム上にインストールされている場合は、Oracle System Assistant の「Get Updates」タスクを実行して最新のツールが使用可能になっていることを確認します。

- 1 次のいずれかを実行します。
 - 使用しているシステムに **Oracle System Assistant** がインストールされている場合は、サーバー OS から **Oracle System Assistant USB** デバイスに移動します。
USB デバイスの名前は ORACLE_SSM です。

- システムに **Oracle System Assistant** がインストールされていない場合:
 - a. サーバーシステムの最新のツールおよびドライバを **My Oracle Support** サイトからサーバーにダウンロードまたはコピーします。
システムツールとドライバにアクセスする方法については、『[Sun Blade X4-2B 設置ガイド](#)』の「サーバーファームウェアおよびソフトウェアアップデートの入手」を参照してください。
 - b. パッケージを解凍してファイルを展開します。
- 2 次のディレクトリに移動します。
OracleVM/*version*/Tools/hmp-tools
ここで、*version* は、インストールされている Oracle VM のバージョンです。
- 3 **Hardware Management Pack** をインストールするには、次にある **Oracle Hardware Management Pack** のドキュメントを参照してください。
<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp>

次の手順 30 ページの「Oracle VM NEM ドライバをインストールする」

▼ Oracle VM NEM ドライバをインストールする

シャーシに Sun Blade 6000 Virtualized 40 GbE Network Express Module をインストールしている場合、サーバーシステムドライバを更新するには、次の手順を使用します。

- 1 次のいずれかを実行します。
 - システムに **Oracle System Assistant** がインストールされている場合は、**Oracle System Assistant USB** デバイスに移動します。
USB デバイスの名前は ORACLE_SSM です。
 - システムに **Oracle System Assistant** がインストールされていない場合:
 - a. サーバーシステムの最新のツールおよびドライバを **My Oracle Support** サイトからサーバーにダウンロードまたはコピーします。
システムツールとドライバにアクセスする方法については、『[Sun Blade X4-2B 設置ガイド](#)』の「サーバーファームウェアおよびソフトウェアアップデートの入手」を参照してください。
 - b. パッケージを解凍してファイルを展開します。

- 2 **OVM Install Pack** ドライバディレクトリに移動します。

OracleVM/*version*/Drivers/NEM-SOL

ここで、*version* は、インストールされている Oracle VM のバージョンです。
ディレクトリにはドライバのインストール手順が含まれています。

- 3 ドライバをインストールします。
- 4 サーバーを再起動します。

次の手順 31 ページの「Oracle VM リソースの作成と管理」

Oracle VM リソースの作成と管理

Oracle VM Server (と Oracle VM Agent) および Oracle VM Manager をインストールしたら、仮想リソースを作成および管理できます。

次のことを行うことができます。

- 共有ストレージリポジトリを作成します。耐障害性のために、このストレージを使用している複数の仮想マシンをクラスタ構成で設定できます。共有ストレージのオプションには次が含まれます。
 - iSCSI (インターネット SCSI) ネットワークプロトコルを使用する OCFS2 (Oracle Cluster File System)
 - SAN (Storage Area Network) を使用する OCFS2
 - NFS (ネットワークファイルシステム)
 - マルチパスフェイルオーバーを備えたパーティション
- 仮想マシンのサーバープールを作成します。
- そのサーバープールに仮想マシンを作成します。

詳細については、次にある Oracle VM のインストールドキュメントを参照してください。

http://download.oracle.com/docs/cd/E20065_01/index.htm

関連情報

- Oracle VM のドキュメントについては、次を参照してください。
http://download.oracle.com/docs/cd/E20065_01/index.htm
- 21 ページの「Oracle VM Server のインストール」

索引

B

BIOS, ブートモード、設定 (Oracle VM), 18–19

O

Oracle System Assistant

OS インストール, 21–25

Solaris, 12

概要 (Oracle VM), 12

Oracle VM

PXE サーバーを使用したインストール, 27

インストール, 10, 21–28

インストールオプション, 11

インストールタスク表, 9

インストールメディア, 25–26

ソフトウェアのバージョンと更新, 10

ドキュメント, 15–16, 16–17

ドライバのインストール, 30–31

補助付きインストール, 21–25

メディアのダウンロード, 15–16, 16–17

リソースの作成と管理, 31

OS のインストール

Oracle System Assistant, 21–25

PXE, 27

インストールメディア, 25–26

手動, 25

P

Preboot Execution Environment (PXE)

Oracle VM のインストール, 27

設定 (Oracle VM), 16–17

U

Unified Extensible Firmware Interface (UEFI), 「BIOS
を参照」を参照

か

仮想ディスク, 18

さ

サポートされている
オペレーティングシステム
Oracle VM, 10

し

手動の OS インストール, Oracle VM, 25–26

そ

ソフトウェア, インストール (Oracle VM), 29–30

た

ダウンロード

Oracle VM, 15-16, 16-17

つ

ツールとドライバ

インストール

Oracle VM, 29-31

と

ドライバ

個別インストール

Oracle VM, 30-31

は

ハードウェアとソフトウェア

情報

Oracle VM, 10

ふ

ブートディスク, 18

プロダクトノートドキュメント, Oracle VM, 10

ほ

補助付き OS インストール, Oracle VM, 21-25

り

リモートインストール, 設定 (Oracle VM), 16-17

ろ

ローカルインストール, 設定 (Oracle VM), 15-16